



平成29年8月 静岡県水産技術研究所伊豆分場ニュース

マダイ放流前の計数作業



↑
田子での計数作業の様子

静岡県内では、人工的に育てたマダイ稚魚を放流しマダイの資源を増やすための栽培漁業が毎年実施されています。温水利用研究センターで生産された放流用マダイ稚魚は、天然海域へ放流する大きさ（平均60mm）になるまで西伊豆町田子と熱海市網代の海上生け簀で約1ヶ月間育成されます（この作業を中間育成といいます）。7月27日、放流できるマダイの尾数を調べるため田子で計数作業を行いました。育成した約8万尾のマダイ稚魚は土肥から南伊豆の各地先に放流します。網代の計数作業は8月2日に行う予定です。

解説：栽培漁業：生残が悪い卵から稚魚までを人間が育てたのち、自然に戻して、成長したものを漁獲する。マダイ、ヒラメ、アワビ、クルマエビなどが対象。

ガンガゼと海藻

ガンガゼはウニの一種で、海藻を食べるため、個体数が多くなると、磯焼け状態となってしまいます。伊豆の西岸域ではガンガゼが多い場所があり、海藻を増やすためにガンガゼを除去する必要があると考えられました。そこで、一部の漁場で2年前からガンガゼが採捕されてきました。その効果（採捕後の海藻の増加）を明らかにするため潜水調査を行



←ガンガゼ採取前の海藻状況

採取後の海藻状況→



ったところ、採捕後に繁茂する海藻の種数が増加し、ガンガゼ採捕の効果が明らかとなりました。

解説：ガンガゼは生殖巣の苦味が強く食用に向かず、イシダイの餌として利用されている。アミノ酸成分では、食用になるウニと比べ、苦味アミノ酸が多かった。

8月の予定●前月に引き続き、キンメダイ種苗生産研究のために親魚捕獲、船上授精を行います。●夏～秋の定置網漁海況予測を発表します。●中旬に県調査船駿河丸を使用し、キンメ漁場のサメ調査を行います。

下田市みなとまちゾーン活性化

下田市中心市街地と下田港に隣接する県まどが浜海遊公園と道の駅開国下田みなとの三つの区域の活性化に向けた協議会の初会合が7月10日、下田市役所(会長：福井祐輔市長)で開かれました。自動車や電車で当市に訪れたときの玄関口に当たるそれぞれの地区のにぎわいを創出するための行事企画や施設整備等について検討していきます。協議会は市、県、市観光協会、下田商工会議所、伊豆漁協、JA伊豆太陽で構成されています。



←道の駅建物

8月5日に伊東魚市場で、イベント「サバーソニック & アジロック」が行われ、当時は県民の日事業として、小学生対象の「チリモン教室」を行います。公共交通機関でお越しください。